

# Medical Safety

## 安全で質の高い 医療現場の環境作り

小さな事例でも分析と対策立案  
事故を未然に防ぐ取り組み



看護部次長兼医療安全管理室長補佐 青山りか

「医療安全管理室は、交番のような役割をしているんです」青山りか室長補佐はそう説明します。

「交番では町の安全を守るため、パトロールしたり、小さな問題を解消したり、事件や事故を防止するための活動をしますよ。医療安全管理室では、院内で安全に医療を受けられるように、点検して回ったり、問題のあるところを直したり、事故を防止するための活動をしているんです」

労働災害における経験則の一つであるハイインリッヒの法則では、一つの重大な事故の背景には、29件の軽症事故と、300件の事故には至らないもののその一歩手前の事例「ヒヤリ・ハット」が存在すると言われています。小さな事例を解決していくことが、重大な事故を未然に防ぐことにつながります。

「当院では、『ヒヤリ・ハット』報告をすることを推進しています。物を落とし破損させたりなど、どんな小さなことでも原因を調べ、対策を考え、院内に発信しているんです」



医療安全管理室には青山室長補佐の他、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士などが所属しているため、専門的な内容についても検討できる体制になっています。

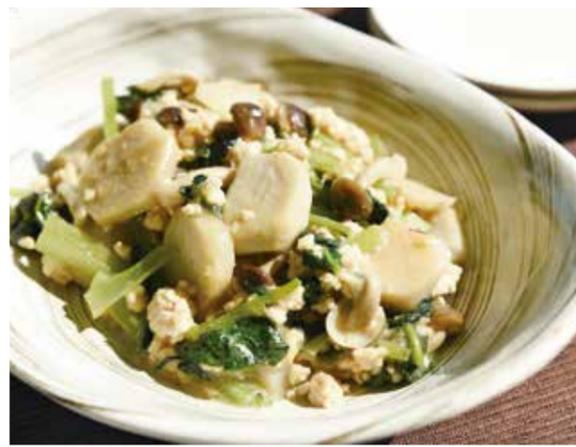
大学病院などでの医療事故報道が相次いだことをきっかけに、国が「医療安全推進総合対策」を策定。20年に市立川西病院に同室が設置されました。患者が、安全で質の高い医療を受けられる環境を作る重要なセクションであり、このように設置ができるのは総合病院ならではのさすです。

「患者さんに協力をお願いします。例え、診察の前や薬を渡す前



には、必ず患者さん自身にフルネームを名乗ってもらいます。顔を覚えていない入院患者さんであっても、例外はありません。間違えれば命に関わる可能性がある問題。薬一つでも大きな事故につながりかねないので、徹底して指導しています」日々の周知活動と、患者の協力で、安全が保たれている一例です。

「一つの事故の後ろには、何百という危険因子が隠れています。それをしっかりと報告することで、医療安全文化の醸成をめざしています。引き続き、患者さんが安心して医療を受けられる病院にしていきたいですね」



## 里芋と鶏肉のみそ炒め

ひき肉を合わせて、ボリュームたっぷり

おとな子どもも  
食と育つ 保健センター  
☎(758)4721

レシピ 保健センター栄養士

●材料 (おとな2人分)

- 里芋(小) ..... 4~5個
  - 鶏ひき肉 ..... 100g
  - 小松菜 ..... 1/2束
  - シメジ ..... 1/2パック
  - 油 ..... 小さじ1
- ※調味料は酒(大さじ2)、みりん(大さじ2)、みそ(大さじ1)、しょうゆ(少々)。事前に片栗粉(小さじ1)を同量の水で溶いておく

熱量 (おとな1人分) : 256kcal、塩分 : 1.3g

●作り方

- 1 里芋は皮をむき、1cm幅に切る。レンジで3分ほどやわらかくなるまで加熱する。
- 2 小松菜は3cmほどに切る。シメジは石づきを切り、適度な小房にほぐす。
- 3 フライパンに油をひき、鶏ひき肉を炒める。火が通ったら、①②を加えて炒める。
- 4 調味料で味付けし、仕上げに水溶き片栗粉でとろみを付ける。

消費生活センターだより 消費生活センター  
☎(740)1167

## ウイルス感染の「警告」に注意

セキュリティソフトの広告かも？  
慌てて契約しないように

**事例1** パソコンでインターネットを利用中、画面に「問題が発生しています」と警告表示が出た。セキュリティソフト(4,000円)をダウンロードするよう案内があったので、クレジットカードで決済をした。そのソフトは自動更新になっていた。パソコンの専門家に相談すると「そんなソフトは必要なかった」と言われた。解約したい。(70歳代 男性)

**事例2** パソコンで趣味のサイトを見ていた。「あなたのコンピューターからウイルスが検出されました」と警告表示と音声メッセージが流れたので、問い合わせ先に電話をした。「遠隔操作によるウイルス除去を行います。費用は2万3,000円です。コンビニでプリペイドカードを買ってID番号を知らせてください」と言われた。手続きをしたが、これでよかったのだろうか。不安だ。(40歳代 男性)

パソコンの操作中に突然現れる警告表示は、本当の危険を知らせるものだけとは限らず、消費者の不安をあおり、ソフト購入手続きや有料サポートに誘導する「広告」の可能性があります。

事例1は、60日間の返金制度があったので取り消しの申し出をして返金されました。事例2は、プリペイドカードで支払ってしまっていたため、相手が特定されず被害回復はできませんでした。

警告表示が出る原因の一つとして、パソコンのOS(基本ソフト)やアプリケーションが最新の状態でない場合、インターネット利用時に警告表示させるプログラムが埋め込まれることが考えられます。常に最新の状態に保ちましょう。

人権啓発シリーズ  
生きる 人権推進室  
☎(740)1150

## 「子どもたちにどうやって伝えよう？」

子どもへのセクマイの説明には慎重な意見も  
身近な話題から分かりやすく工夫

ごきげんよう。戸籍上は男性の女性弁護士、仲岡しゅんです。

前は、子どものセクシュアルマイノリティについてお話ししましたが、実は私は、弁護士になる以前、女性の指導員として、学童保育の先生をしていたことがあります。

司法試験に合格して、学童保育の指導員を辞めたのですが、辞める前に、学童保育の小学生たちにセクシュアルマイノリティのことを話していくことにしたのです。

とはいえ、子どもにセクシュアルマイノリティについて教えるというのは、やはり慎重な意見もありました。カタカナ語が難しいという指摘や、性教育になりかねない、ということでも腰が引けるようです。

もっとも、前回お話ししたように、子どもの中にもセクシュアルマイノリティはいて、そのような子が孤立しがちであるという状況に一石を投げたいという思いがありました。

そこで、私が子どもたちに話すために工夫したのは、視覚的に分かりやすい、色紙を使って説明することでした。

「赤が女の子で、青が男の子って誰が決めた？決まってるよね？」「色紙には赤と青だけじゃなくて、緑や黄色もあるように、人間も実は女と男だけじゃないね。ほな、他に何かあると思う？」。

元気な小学生たちですから、口々に色んな答えが飛んできます。

さて、私の問いかけに、子どもたちは何と答えましたでしょうか？次回に続きます。

(なにわばし国際合同法律事務所 弁護士 仲岡しゅん)

